

■江原素六とその周辺 75

看護師の先駆となった静岡移住旧幕臣の子女たち

■令和7年度新収資料の紹介

■令和7年度当館収蔵資料の利用

■明治史料館ギャラリートーク



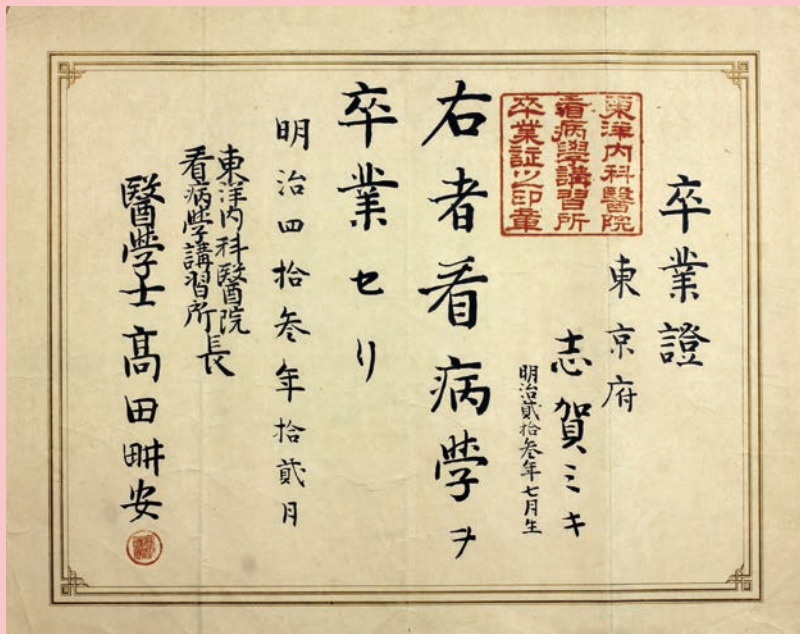
楠田看護産婆学校第一期卒業生
 明治二十九年（一八九六）一月撮影
 当館蔵

院長楠田謙蔵とその息子巖、生徒壬生珠子・渡辺関子・峰岸玉子・会田銀子。東京日本橋区浜町で開業した医師楠田謙蔵（1861～1909、兵庫県出身）は、産婆・看護婦の養成にも力を入れた。同年12月の新聞広告では、楠田産科婦人科院高等産婆養成所と称している。この写真の撮影者は、同じ日本橋区人形町で写真館を営んでいた沼津兵学校資業生出身の島田隨時（？～1902）。

二〇二六年五月

沼津市明治史料館通信

通巻165号



志賀ミキの東洋内科医院看病学講習所卒業証
 明治43年（1910）12月
 当館蔵

志賀ミキ（1921年没）は、江原素六の次男次郎の妻。東洋内科医院・看病学講習所長高田研安（1861～1945）は、京都出身で東京帝国大学卒の医学博士、明治29年（1896）東京神田駿河台に東洋内科医院を設立し、その医院長となる。同志社で学んだクリスチャンでもあり、32年（1899）キリスト教主義にもとづく肺結核の療養所南湖院を茅ヶ崎に開設した。妻テルは勝海舟の外孫（旧幕臣疋田正善の娘）、長男の妻ナカ子はクリスチャンの旧幕臣戸川残花（安宅）の娘。疋田正善（亀之助・瓢吾、1893年没）は小姓組・奥詰銃隊などをつとめた600石の旗本で、静岡藩では宮ヶ崎御住居三等家従として知藩事徳川家達に近侍した人。大正2年（1913）設立の日本結核予防協会では、高田は評議員、江原素六は名誉会員に名を連ねているが、2人には他にも接点があったであろう。

ことがわかっていたので、静岡藩での移住先（もしくは割付先）は遠州だったはずであり、沼津とは無関係であろう。まさの父加藤信盛の移住地についても沼津だったかどうかは不明である。

ところで、沼津兵学校の創設者江原素六は、大正六年（一九一七）発行の雑誌に、以下のような逸話を語り残している。

（前略）部下に石井謙次郎と云ふ人があつて、私の暫く部下に居りましたが、水戸の耕雲齋派でありますから恐しい頑固です。所が其娘が看護婦になりたいと云ふことを此両親に云つたのです。今日では看護婦と云ふものは、誰でも知つて居りますが、明治六七年頃は看護婦などと云ふものは、相当の教育ある人でも知らない時代であつた。況や武士の娘が看護婦になると云ふのでありますから、両親の驚き方は恐しいほどで、『それは飛でもないことである、武士の体面に関する、武士の娘が看護婦などになると云ふことは無い』と云つても、是非なりたいたと云ふ、其娘はそれまで外国人に就いて耶蘇教を信じて居た。何か人間は、他人の爲めに力を尽すべきものであると云ふことを、チヨツト女心にかちつて居つた。そこで何も尽し様は無いが、此田舎は医者が少ない爲めに、屢々病人が死ぬのである、看護法を知つて居つたならば応急手当が出来る、応急手当をしない爲めに助かる病人も死ぬことがある。又一に看病二に薬と云ふことがあつて、看護と云ふものは、人の命に非常に関係するものである。故に私は田舎に居つて重病人があつたならば、応急の手当をしてやりたい、又貧乏人の家に病人があつたならば一生懸命に親切に世話をやりたい、さうすれば多少村の爲めになるだらうと云ふのであります。そこで、両親も大層感心して、そんなら許すから看護婦の学問を学べと云はれたので、娘は西洋人の所に行つて、之を学んで看護婦になつたのです。たしか其人は後に慈恵病院の

看護婦長になつたかと思ひますが、日清事件の時に戦場へ行つて、病氣に罹つて死にました。（後略）

（江原素六「僕婢的氣質」『雄弁』第八巻第一号）

両親の反対を受けるなど、土族の娘が看護婦になることが当時の社会においていかに難しかったのかがわかる。江原は父親の石井謙次郎の名前しか出していないが、娘の名は石井鈴子という。彼女も近代日本における看護婦のパイオニアだった。明治一七年（一八八四）に開始された有志共立東京病院（後の東京慈恵医院、現東京慈恵会医科大学附属病院）での看護教育を受けた生徒になったのである。彼女の履歴は、東京都港区・青山霊園に立つ墓石に刻まれている。正面に「石井鈴子之墓」、裏面に「鈴子者静岡県土族石井謙次郎長女也明治元年十一月生同廿年十二月応東京慈恵医院看護婦見習之召募廿一年七月七等看護婦被申付同年十月挙乙種看護婦生徒罹病遂不起廿三年二月六日死 有志者建之」とある。鈴木まさよりも一歳ほど年少であるが、看護教育を受けた時期は重なる。江原は勘違いをしているようで、日清戦争には従軍しておらず、二三年（一八九〇）に若くして病没したのである。

鈴子の父石井謙次郎（一八三八〜一八八八）は、幕末には江原の部下、すなわち幕府陸軍の撒兵差図役並勤方だった人。江原は「耕雲齋派」、すなわち水戸藩の影響を受けた頑固な攘夷論者だったと述べている。榎本武揚率いる脱走艦隊に加わったものの銚子沖で遭難したため、駿河へ移住し静岡藩士となった。廃藩を挟んで志太郡（現藤枝市）の朝比奈山の開墾に取り組み、茶業振興に尽くしたことで知られる。

偶然にも鈴木まさの父加藤千三郎も江原直属の部下だったが、はたして江原は看護界におけるまさの存在を知っていたであろうか。

静岡藩士を父に持った二人の女性、鈴木まさと石井鈴

子。奇しくも維新の「敗者」の側に身を置いた彼女たちであったが、二重三重の苦難を乗り越えて、看護師という未踏の分野を切り拓いたといえる。

〔参考文献〕高橋政子「クリオへの感謝 歴史にみる看護婦群像1第1話 鈴木まさのこと」〔看護教育〕第二二巻第六号、一九八一年、高橋政子『写真でみる日本近代看護の歴史 先駆者を訪ねて』（一九八四年、医学書院）、田中ひかる『明治のナイチンゲール 大関和物語』（二〇一三年、中央公論新社）、『北海道所蔵史料目録 第2集 簿書の部（その2）』（一九六二年、北海道総務部文書課）、伊多波碧『小説もうひとりのナイチンゲール 鈴木雅の生涯』（二〇一六年、潮出版社）、拙稿「江原素六の戊辰時脱走抗戦関係史料」（『沼津市博物館紀要』33）、小山枯柴「維新前後の静岡」、『諸向地面取調書（二）』、『戊辰東軍戦死者碑建設了報告』、『明治十二年明治天皇御下命「人物写真帖」』、『諸向地面取調書（三）』、東光司『徳川脱藩人事典』（二〇一九年、徳川脱藩人調査会）、木下安子「看護史研究サークルだより 第2報」〔医史学研究〕第二号、一九六一年、「北部茶産地の礎造りに貢献した茶業功労者石井謙次郎の足跡を訪ねて」（『茶道楽』第一五号、二〇〇一年、静岡県茶文化振興協会）

（樋口雄彦）



石井鈴子の墓
東京都港区・青山霊園

令和7年度新収資料の紹介

昨年度、明治史料館に仲間入りした資料です。

寄贈	沼津市立第二小学校 沼津市立千本小学校 静岡県立沼津商業高等学校 相磯晶美様 沼津市庄司美術館	写真等 写真等 沼津城の瓦 書画類 前田千守関係資料	購入	島田三郎書簡額 加藤定吉中将めんこ 田辺朔郎葉書 中村臺訳『官許開化事始』 沼津藩関係 水野忠誠書幅 達村容吉著『粗木工』岩城魁編『桂谷紀聞』 三浦徹訳『聖教信徒問答』 その他沼津の歴史関係 榎豊作来翰集 榎豊作宛書簡 和田伝太郎著『藪鷲』 和田伝太郎著『桜吹雪』『東京帝国大学運動部水泳部開場広告』 佐々木古桜画「武者絵色紙」 絵葉書久連国民高等学校農場 絵葉書静浦全景 絵葉書沼津静浦獅子浜の富士 絵葉書沼津学習院修養団国民体操 絵葉書駿河湾八景その3久連神島
	購入	江原素六関係 麻布中学校「明治三十八年三月学年試験成績表」「明治四十年三月学年試験成績表」 沼津兵学校・旧幕臣関係 服部常純（綾雄）詠歌短冊 西周書簡 林洞海校閲『製菓鑑法』全8巻 中根淑著『撰註漢文読本弁髦』 渡部温編纂『改正増補通俗伊蘇普物語原書』 石橋絢彦校閲『鉄道要具編』 「富士生命保険株式会社案内」 武蔵吉彰出版『大阪夏冬両陣始末慶元記』		

令和7年度当館収蔵資料の利用

明治史料館の資料が様々なところで活躍しました。

☆展示使用

4月～6月	静岡市歴史博物館 企画展「明治維新と静岡 徳川慶喜、家達と旧幕臣たち」 「準九等出仕申付候事」 「静岡藩少参事辞令」（江原素六関係文書） 「小島初学所提書」
6月～12月	沼津市芹沢光治良記念館 企画展「光治良の戦争と平和ー「サムライの末裔」ー」 写真「復興途上の上土・大手町方面」 「世界大戦一覽地図」（西沢田平松家文書）
7月～9月	三島市郷土資料館 企画展「歴史資料から見る三島と戦争」 写真「空襲後の沼津市街地」「沼津大空襲 炎上する沼津市街地」 横浜市歴史博物館 企画展「北条幻庵ー横浜・小机城と関東の戦国ー」 文書「葛山氏元朱印状（永禄6年）4月3日」（獅子浜植松家文書（市指定文化財））
8月～9月	沼津市役所 パネル展示「沼津の戦争と記憶」 写真「大手町の焼け跡」「焼け跡の沼津市街地」
2月～5月	「大熊☆氏廣一応用編：近代日本がもてめた彫刻家ー」 川口市教育委員会 写真「大築尚志銅像ミニチュア」（大築尚志関係文書）

☆刊行物掲載

4月	「ぬまづ茶新茶まつり2025」（チラシ） 富士伊豆農業協同組合 写真「江原素六」（江原素六関係資料）
5月	平山優『沼津三枚橋城物語』 沼津郷土史研究談話会 「天正8年北条・武田合戦沼津近辺絵図」（東間門田中家文書）
8月	『広報ぬまづ 8月1日号』 沼津市 写真「大手町の焼け跡」「焼け跡の沼津市街地」「戦時中の運動会」「馬込の第九家庭防空組合の防空訓練」「爆撃を受けた大手町トラヤ薬局の惨状」「大手町後片付け」「土地分譲の始まり」「海軍技術研究所実験水槽跡」等
10月	『日本物理学会誌 80巻10号』 日本物理学会 田中啓介「東京数学会社と明治初期の数物語事情」 写真「沼津兵学校記念碑」「中川将行」
3月	松田正貴『墨ぬり教科書ー敗戦直後における日本の教育とアメリカ』 ナカニシヤ出版 写真『初等科国語8』表紙と挿入メモ『連合軍指令文書大平小学校』表紙 『静岡県文化財防災ハンドブック』 静岡県 写真『地震之記』小林村絵図

☆テレビ・WEBサイト等

4月	静岡朝日テレビ「とびっきり！しずおか土曜版」 浮世絵 広重画「東海道五十三次之内 原」 浮世絵 広重画「五十三次 原」
11月	令和7年度静岡県高等学校放送新人コンクールビデオメッセージ部門 日本大学三島高等学校放送部出品作品「我入道の渡し船」 写真「昭和40年（1965）頃の我入道の渡し」
12月	CBCテレビ「歩道・車道バラエティ道との遭遇」 写真「空襲後の沼津市街地」

明治史料館ギャラリートーク

当館では、毎月第2土曜日の11時からギャラリートークを開催しています。話者は学芸員や学芸スタッフです。1回のみでの参加も可能です。参加には事前申込が必要です。各回とも1週間前の土曜日、9時から電話または直接お申し込みください。

令和8年各月のトークテーマ（予定）

月	テーマ
6月	沼津兵学校の授業をのぞいてみよう ～兵学校の教育と教育者たち～
7月	7月17日 ～太平洋戦争と沼津大空襲～
8月	戦争ごっこ ～戦時下のこどもたちと暮らし～
9月	沼津にも文明開化の音がする ～明治時代の沼津～
10月	神の御導き ～キリスト教と沼津～
11月	「昭和100年」記念 富士・沼津・三島3市博物館共通テーマ展 「昭和の産業と人びとの暮らしー戦後復興と高度経済成長期の沼津ー（仮）」
12月	「昭和100年」記念 富士・沼津・三島3市博物館共通テーマ展 「昭和の産業と人びとの暮らしー戦後復興と高度経済成長期の沼津ー（仮）」

沼津市明治史料館通信 第165号

令和8年5月31日

編集・発行 沼津市明治史料館
〒410-0051 沼津市西熊堂372-1
TEL 055-923-3335
FAX 055-925-3018

印刷 みどり美術印刷株式会社